

総務文教委員会記録

令和2年5月21日（木）
9時58分～14時57分
全員協議会室

- 【委員】 西村委員長、芦谷副委員長
三浦委員、西川委員、上野委員、永見委員、西田委員、牛尾委員
- 【委員外】 小川議員、野藤議員、柳楽議員
- 【議長団】
- 【総務文教委員会 所管管理職】
- （市長公室） 西川市長公室長
- （総務部） 坂田総務部長（行財政改革推進課長）、佐々木総務課長、池田総務課副参事、馬場防災安全課長、湯浅特別定額給付金室長、山根人事課長、河内財政課長、戸田契約管理課長
- （地域政策部） 岡田地域政策部長、邊地域政策部副部長（まちづくり推進課長）、大屋政策企画課長、川合定住関係人口推進課長、
- （金城支所） 篠原支所長、佐々尾防災自治課長
- （旭支所） 佐々尾支所長、細川防災自治課長
- （弥栄支所） 外浦支所長、三浦防災自治課長
- （教育委員会） 石本教育長、河上教育部長、猪木迫教育部参事、草刈教育総務課長、龍河教育総務課副参事、市原学校教育課長、村瀧学校教育課副参事、鳥居学校教育課学力向上推進室長、村木生涯学習課長、濱見文化振興課長
- （選挙管理委員会） 木原選挙管理委員会事務局長
- （消防本部） 琴野消防長、宇津総務課長、森下警防課長、齋藤通信指令課長、一本田消防署長、伏田西部消防署長
- 【事務局】 下間書記

【議題】

1 執行部報告事項

- | | |
|--|----------------|
| (1) 令和2年度浜田市総合防災訓練について | 【防災安全課】 |
| (2) 令和元年度空き家バンク制度利用状況について | 【定住関係人口推進課】 |
| (3) 浜田市地域協議会委員の選任について | 【まちづくり推進課】 |
| (4) 島根県立大学等の入学状況について | 【まちづくり推進課】 |
| (5) 敬老福祉乗車券交付事業及び運転免許自主返納支援事業の申請状況について | 【まちづくり推進課】 |
| (6) 浜田市生活路線バス等の利用実績について | 【まちづくり推進課】 |
| (7) 石見交通路線バスの減便等に伴う対応について | 【まちづくり推進課】 |
| (8) 令和元年度学力向上総合対策事業実績報告書について | 【学校教育課学力向上推進室】 |
| (9) 令和元年度青少年サポートセンターの利用状況について | 【学校教育課】 |
| (10) 浜田市社会教育アドバイザーの委嘱及び令和元年度の活動について | 【生涯学習課】 |

裏面あり

- | | |
|--|---------|
| (11) 特色あるふるさと教育事例集及び海洋教育実施概要集について | 【生涯学習課】 |
| (12) 令和元年度 浜田市立図書館全館の利用状況 | 【生涯学習課】 |
| (13) 浜田市立図書館の機器入替にかかる臨時休館期間の変更について | 【生涯学習課】 |
| (14) 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う令和2年度芸術文化事業の延期・中止について | 【文化振興課】 |
| (15) 浜田城下町案内板について | 【文化振興課】 |
| (16) 浜田市の歴史読本の刊行について | 【文化振興課】 |
| (17) 浜田市のAED設置場所等の公開方法変更 | 【警防課】 |
| (18) 消防団車庫統合について | 【警防課】 |
| (19) 消防救急無線デジタル化整備における談合の対応について | 【通信指令課】 |
| (20) その他 | |
| (配布物) | |
| ・令和2年度園児・児童・生徒数一覧について | 【学校教育課】 |
| ・令和2年度学校職員名簿について | 【学校教育課】 |
| ・令和2年度公民館職員名簿について | 【生涯学習課】 |

2 その他

3 取組課題「こどもの可能性を育む幼児教育について」

【議事の経過】

[9 時 58 分 開議]

西村委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は8名で定足数に達している。

議題に入る前に、4月人事異動で異動された管理職の皆にご挨拶いただきたい。

なお今回は長時間の三密を避ける意味合いで、議題に直接関係ない管理職の方は、ご挨拶の後に退席されて構わない。

(管理職挨拶)

下記の管理職（下記は順不同）

坂田総務部長（行財政改革推進課長）、篠原金城支所長、外浦弥栄支所長、邊地域政策部副部長（まちづくり推進課長）、佐々木総務課長、湯浅特別定額給付金室長、川合定住関係人口推進課長、鳥居学力向上推進室長、濱見文化振興課長、琴野消防長、森下警防課長、西川市長公室長、池田総務課副参事、山根人事課長、河内財政課長、戸田契約管理課長、大屋政策企画課長、佐々尾防災自治課長（金城支所）、佐々尾旭支所長、細川防災自治課長（旭支所）、三浦防災自治課長（弥栄支所）、猪木迫教育部参事、草刈教育総務課長、龍河教育総務課副参事、木原選挙管理委員会事務局長、宇津総務課長（消防本部）、~~本田消防署長消防本部~~、伏田西部消防署長消防本部

西村委員長

よろしく願います。ではレジュメに沿って進めるが、お断りしておきたいことがある。レジュメの最後に書いてある議題3の取り組み課題について執行部からだいたい問合せが入ったようだが、これは議員だけで話す内容であって執行部には関係がない。一言お断りを申し上げておく。

執行部の説明、また委員の質疑はともに簡潔明瞭に願います。

1. 執行部報告事項

(1) 令和2年度浜田市総合防災訓練について

西村委員長

防災安全課長。

防災安全課長

(以下、資料をもとに説明)

西村委員長

説明が終わった。委員から質疑はあるか。

永見委員

これから梅雨に入り大雨の発生が予測される。避難所における新型コロナウイルス対策はどうなっているか。地域からも、避難所運営をどのように取組めば良いかという声を多く聞く。検討状況があれば、お聞かせいただきたい。

防災安全課長

新型コロナウイルス対応を考えた上での避難所運営は大変重要である。現在マニュアルを整理している。ある程度お披露目できるようなれば公開していく。また実際の避難所を開設しての訓練は多少リスクを負う関係があるので、少し整理してなるべく早い時期に、こちらの考えがまとまり次第公開していく。

永見委員

各自自治区においては避難所の広さにもバラつきがある。三密を避ける形など、早急にお示しいただきたい。

牛尾委員	コロナ禍における防災はどうあるべきか、報道にもいろいろ出ている。例えば避難所に行くより自宅の2階に逃げるとか。発生してないうちに仮定の話をするのは難しい。市民からは、三密を避ける等の条件が付けば避難所は足らなくなるだろう、そうすると今以上に避難所の確保を心配するようなご意見を聞く。最悪を想定してのメニューを市民に提供していただくようお願いする。
防災安全課長	ご意見もつともで、こちらもそのように考えていく。避難所設営以外にも、垂直避難、自主避難も大事なもので、こういうものは広報等を通じて周知したい。避難所設営とは違った観点で重要なので、十分取り組みたい。
西村委員長	他にあるか。 (「なし」という声あり)

(2) 令和元年度空き家バンク制度利用状況について

西村委員長	定住関係人口推進課長。
定住関係人口推進課長	(以下、資料をもとに説明)
西村委員長	説明が終わった。委員から質疑はあるか。
西川委員	空き家バンクの目的というのは定住人口の増加だと思う。件数の数字だけでなく目的達成度が併記してあると分かり易いのだが、それについていかがだろうか。
定住関係人口推進課長	定住に対する達成度ということによろしいか。
西川委員	事業目的である定住人口の増加に対して、空き家バンクの件数がどう同期してどう達成されているかを併せて報告いただいたら嬉しい。
定住関係人口推進課長	ご提案感謝する。例えば、浜田市のUIターン者の中で空き家バンクを利用されている方がどれくらいか、といった示し方になろうかと思うが、数字の出し方について検討してまいりたい。
三浦委員	潜在的に市内にある空き家に対して、登録数の割合はどのくらいか。
定住関係人口推進課長	現在、空き家の件数を我々が把握していないため、どの程度の割合になるのかは今すぐにお答えはできない。調べて報告させていただく。
三浦委員	そういうのはこれまで調査されてこなかったのか。
定住関係人口推進課長	過去には調査したことがあると伺っているが、それがいつ頃で、その時の件数は把握していない。
地域政策部長	空き家に関しては空き家バンクだけでなく、それが増えていくこと自体が問題ということで、建築住宅課で空き家対策を考える折に全体で調査したことはある。ただ、空き家バンク制度は空き家をすぐそのまま登録できるのではなく、宅建の資格を持っている調査員と一緒に入って、調査済みのものを登録していくため、年間70、80件が限界である。潜在的な空き家はまだまだ多いと思っている。
三浦委員	目安として年間70、80という数字が現在だというのは理解する。宅建業者が入って、付ける物件が増えたことがマッチング8割等に繋がっている。地元の不動産会社との連携の問題は、空き家バンクの課題を考える時によく出てくる話だが、空き家バンクの登録件数は今後増やそうとしているのか。今後について民間の地元事業者とお話されているか。
定住関係人口推進課長	地域政策部長のご説明にもあったが、空き家登録依頼が出た際、所有者、

不動産会社の方と一緒に我々職員も行って調査をしている。所有者が希望しておられる金額が妥当か、権利関係について専門家からアドバイスをいただきながら相談して調整している。その他、我々で判断できないことは宅建センターにも逐次相談に乗っていただいて、常に連携体制は取れていると思っている。

空き家バンク登録件数の増加に向けて、近年の傾向としては空き家の期間が短い物件が多く出ているように思う。そのため比較的条件の良い空き家が出るようになったことが、入居件数の増加にも繋がっているかと思う。家が傷まない間に活用について働きかけができる方法について、係員とも相談している。

三浦委員

地元の不動産事業者は地域の不動産情報を持っておられる。その方達に空き家バンクの登録件数をより増やすといった部分等、ある部分の業務を担っていただくといったお考えはお持ちか。それとも、今はこの件数を維持していく考えか。

定住関係人口推進課長

不動産業者から物件の紹介をいただくこともある。現在は事務量的にはいっぱいの部分があるので、条件のいい空き家を出していただき、それを速

やかに入居に繋げていく。空き家は浜田市にとって資源の1つなので、資源活用に前向きに取り組んでいきたい。

地域政策部長

空き家バンク制度は宅建センターに市から調査依頼をして一緒に見に行く形でやっているため、市の事務処理量の都合でどうしても限定にならざるを得ない。不動産業者が持っている情報も手間をかけずに登録できたら、もう少し広がるのではというご提案だったと思うが、現在の考え方からいくと、市も判断をした後に登録しているので、現状のスタイルを当面続けたいとは思っている。

上野委員

美川地区で井戸端会をした際に地域の方から、情報を持っている地元の人間を空き家バンクに関わらせてほしいと言われたことがある。例えば地域協議会の方を加えたらどうだろうか。

定住関係人口推進課長

自治区あるいは町内単位で空き家の掘り起こしの取組をされたり、あるいは親御さんが亡くなった際にご遺族に空き家バンクを紹介するようなことも増えていると伺っている。地域協議会等に取組をしていただくのも地域差があつて難しいかと思うが、地域からの取組も少しずつ広げていただけるようお声かけしていきたい。

牛尾委員

新型コロナウイルスの影響で人本来の生き方が変わるのでとは言われている。田舎暮らしを目指す方もいらっしゃるのではと。浜田市は社会人採用を40歳まで広げたことでニーズは増してくるだろう。その際の受け皿としての空き家。定住人口を増やそうと思えば、コロナ後の生き方を課として提案し、呼び込んでいく考え方を持たれるべきだと思うのだが、どのようにお考えか。

定住関係人口推進課長

ご指摘のとおり新型コロナウイルス感染による影響が、都市部を中心に生活に大きくでていることから、収まった時に、地方の暮らしが新たに見直される時期が来るのではと考えている。すぐに優良な空き家を提供できるよう用意しておくこと、あるいは地方の安心できる生活を都会の方にご提案できるような方法について検討していきたい。

牛尾委員	併せて、空き物件の横に家庭菜園があれば理想なのだが。増えている耕作放棄地に共同の家庭菜園ができるといった、そういうものがセットで定住人口拡大に結び付ける視点を持ってもらって、是非取り組んでいただきたい。
芦谷委員	総合窓口課で死亡の手続きの際に配られる資料の中にあるのは、空き家は空き家バンクへだけである。誰かが亡くなれば資産管理や納税等、空き家に関する総合的な相談に乗れば、もっと空き家の有効活用が進むと思う。建築も総合窓口も含めて、全体で空き家になった場合に水際で進める体制が作れると思うが、もしお考えがあればお伺いする。
定住関係人口推進課長	ご指摘のとおり、市内全体での取組も必要かなと思ってはいる。また調整をさせていただきたい。
西村委員長	委員長を交代する。
芦谷副委員長	西村委員長
西村委員（委員長）	4月14日の全員協議会で質疑した関係で。大学生にバイトの口が来なくなって生活困難に陥っている話の続きのような話だが、その後バイトは見つかったようだ。今の状況で生活不安もあり、今あるアパートからもう少し経済的条件が良い、要するに安いアパートに引っ越したいという相談が引き続きその方からあった。建築住宅課にも行ったが、市営住宅については、学生は対象外であったため、結局民間を探すしかない。可能性としてそういった学生に対して貸す可能性はあるか。あれば市も大学と協力しながらやっていく方向性が持てないだろうか。
定住関係人口推進課長	個別物件について、学生の入居について良い悪いというところまでは確認ができてないし資料を持ち合わせていないが、賃貸の場合は敷金が必要だったり、あるいは保証人が必要だったりという条件が提示されているので、学生であってもそういう条件が満たせれば貸していただけるのではないかと思う。ただ、安い物件にはかなり古いものも多くあるので、学生の希望に沿うものがあるかなと思う。 賃貸の内訳だが、だいたい4万円から6万円くらいの物件が多くでている。やはり民家なのでワンルームマンションやアパートと比べると家賃もそれなりになるし、また、場所的に大学から離れているものも多いので、学生のご希望が合えばもちろん進めていきたいお話である。
地域政策部長	松江では一軒家を学生が数人で借りてシェアのようなやり方をしておられ、家一軒の賃料は変わらないまでも、学生1人の支払いを圧縮するような取り組みをされている。ご指摘いただいたのでそういう例も参考に少し考えてみたい。もし仮にそうなれば、どういう条件が良いかを大学と相談し、研究する。
西村委員（委員長）	是非検討をお願いしたい。学生なので借りるとなっても在学期間に限られる。その間、遊ばせておくよりは使っていた方が良いという考え方もできなくはない。支援という意味なら、市がいくばくかの財政支援という方法もあるのではと思う。とにかく、財政面がネックになって大学を去る学生が出てはならない。何らかの手を尽くして救っていただきたい。
芦谷副委員長	委員長を交代する。

(3) 浜田市地域協議会委員の選任について

西村委員長	まちづくり推進課長。
まちづくり推進課長	(以下、資料をもとに説明)
西村委員長	説明が終わった。委員から質疑はあるか。 (「なし」という声あり)

(4) 島根県立大学等の入学状況について

西村委員長	まちづくり推進課長。
まちづくり推進課長	(以下、資料をもとに説明)
西村委員長	説明が終わった。 (4) について委員会から質疑はあるか。
三浦委員	リハカレの入学情報だが、沖縄県から10名と他県に比べて非常に多いのは、他県より特別にプロモーションされたのか。また、中国やネパールの方が現在こちらに来られたのか。
まちづくり推進課長	沖縄の10名については、リハカレが特に沖縄の高校を訪問して集中的に学生確保に努められたそうである。沖縄にはリハビリ系の学校が少ないのか、積極的にPRされたと同っている。 外国人10名は元々昨年まで日本におられた方なので、すでに浜田にきておられる。
西川委員	同じくリハビリテーションカレッジについて。昨年5月の総務文教委員会の資料で、毎年100名の入学と外国人向け授業開始とある。沖縄は増えているが、首都圏からの入学がほぼない。100に達してない理由についてお聞きする。
まちづくり推進課長	2月以降の最後の学生確保時期に集中的な対応ができなかったことと、首都圏での学生確保については外部協力機関と連携する計画だったが、これが上手くいかず結果的に首都圏からの確保に至らなかったと聞いている。
西川委員	ビューティーカレッジは定員60名に対して毎年大幅に少ない。普通ならこれだけ少ないと経営がかなり厳しいはずだが、あまり切迫していないのは他にも事業をしているからか。浜田市も学生確保に協力しているように見えない。ビューティーカレッジとの連携はこれまでもこれからもする予定がないのか。
まちづくり推進課長	学校経営自体は非常に厳しいと聞いている。この学校を運営しておられる法人の関連会社に関西で、美容系美容機器販売をされている会社なので、そちらからの支援で現在の学校経営は成り立っている。 浜田市と学校との連携については、都会地のUIターンフェアや就職相談会も市の定住担当課から行っている。そこにビューティーカレッジの関係者の方も同行してPR活動をしたり、また、広島市内への中学・高校へのPR活動等も広島教育委員会を通じて行っている。できる範囲で連携しながら学生確保の協力は続けている。
西田委員	コロナの関係で入学生に対する取組はかなり厳しい。特にリハカレは苦戦している。コロナがどこまで続くか見えない状況で、今年度入学生が48名なので、来年度に向けて本来はすでに動いている状況なのだが、来年度に向けての動きができないのが一番つらいところだろうと思う。

	来年度はもっと厳しくなるのが見えてくる。市としてどのようにお考えか。
まちづくり推進課長	例年だと来年度の学生確保の活動を開始している時期だが、まだコロナの関係で全く動きが取れていない状況である。しかし全国の高校へのPRは積極的にされると伺っている。市がどのように連携できるか、相談しながら対応していきたい。
牛尾委員	数年前に僕の後輩がリハカレの生徒勧誘のための営業担当に着任した。営業しているからこのような数字が出ているのだろう。隙間を責めるともう少し上がるかなと思う。いろいろな事情があるにせよ50人を割ったのは危機的状況なので、この問題は学校存続にかかわるのではと心配している。リハカレの営業の方に行政も同行して、学校当事者と行政と一緒に勧誘活動をする、もっと入学生が伸びるのでは。ここまでやるつもりはあるか。
まちづくり推進課長	全国にリハビリ系の学校がある中、沖縄は少ないのでその隙間を狙って集中的に訪問した結果が出ていると思っている。営業に市が同行するのは確かに今まで行ってない。どういう支援ができるか分からないが、財政支援だけでなく人的支援も今まで以上にできるように検討していきたい。
牛尾委員	リハカレは浜田にとって必要だと思う。水産課では毎年ポートセールスをやっているが、出張コストはそれほどかからない。学生確保も営業だと思うので、単なる島根県の一地方の担当者が行って来てくださいますというよりも、行政が併せて支援している姿勢を見せるために、営業活動に時間を割いても良い案件だと思う。是非実現を検討して頂きたい。
まちづくり推進課長	対応について検討させていただく。
芦谷委員	ある調査によれば進学を断念するのが13人に1人という数字がある。県立大学も含めて市内にそういう学生があるのか。掴んでいたら教えてほしい。
まちづくり推進課長	5月補正の中に学生向けの商品券配布事業を提案させていただいたが、この際に、各学校の状況を把握した。県立大学では全学生を対象にアンケート調査をしており、7、8割がアルバイト等の減少により経済的に苦しくなっていると聞いている。リハカレもアルバイトに頼っている学生が多く、生活が厳しいという相談が何件か寄せられている。ビューティーカレッジと准看護学校については現状では、学校に対してそういった相談はないと認識している。
芦谷委員	是非、学校と寄り添って学生を一人の落ちこぼれも出ないよう支援する態度をとっていただきたい。
西村委員長	休憩を取りたい。11時10分まで。

〔 休憩 10時 58分 〕

〔 再開 11時 08分 〕

西村委員長	委員会を再開する。空き家バンクの件で補足説明がある。定住人口推進課長。
定住関係人口推進課長	空き家の件数のデータをご用意したのでお知らせする。平成26年度に

都市建設部で空き家の調査をされた。市全体では2,409件、うち浜田自治区で1,351件、金城215件、旭234件、弥栄121件、三隅488件。空き家はあっても中に物があって空き家バンクに登録しにくい状況もあったが、浜田市では片付け費用やリフォームに必要な費用の一部を助成する制度もあるので、制度紹介をしながら空き家の登録増加に取り組んでいきたい。

(5) 敬老福祉乗車券交付事業及び運転免許自主返納支援事業の申請状況について

西村委員長	まちづくり推進課長。
まちづくり推進課長	(以下、資料をもとに説明)
西村委員長	説明が終わった。委員から質疑はあるか。
西川委員	自治区別の元年度の合計が400人、返納時期別で元年度が325人。合計は1004人で一緒なのだが、表の見方が分からない。
まちづくり推進課長	申請状況については実際に市窓口で無料乗車券の交付を申請された人数。イはその方が実際に免許返納をされた時期の年度での分類整理をしている。イの表で30年度だと243人の方が返納されているが、うち184人が市窓口で実際に交付申請された。残りの方は年度をまたいで元年度になってから無料分を受け取りに来られた。年度間の人数がずれている。
西川委員	返納された後、敬老福祉乗車券が交付されるが、それからなくなった後、社会との繋がりが薄くなることで認知症が進んだり鬱があったりするるので、福祉関係と連携するべきという話をしたのだが、それについていかがか。
まちづくり推進課長	免許返納者の外出機会が減るということだと思う。返納の際にも無料交付は5冊限りだが引き続き半額での購入ができることなどPRさせていただいているし、サロンでも敬老福祉乗車券制度のPRや出張販売を行っている。交通対策側からの施策としてはいろいろな形でPRしている。
西川委員	年間に200人から400人くらいの方が返納されるが、それだけそういう方が増える。福祉関係でこの数字をどう扱っておられるか、まちづくり敬老乗車券だけで対応されているのか。
まちづくり推進課長	返納状況については福祉にも情報提供はしているが、深いかわりを持った具体的な対応まではできてないので、今後更に福祉とも連携していく。
芦谷委員	1ページの資料で28年度が高くて下がっている。この辺の交付率の理由が分かれば教えてほしい。
まちづくり推進課長	28年度に事業開始して、事業初年度ということで多くの方に購入いただいた。28年度に購入されたチケットを使いきれず、翌年度に持ち込まれる方は、29年度、30年度には買えない方もいるので、年々交付率が下がっている。
西村委員長	他にあるか。 (「なし」という声あり)

(6) 浜田市生活路線バス等の利用実績について

西村委員長	まちづくり推進課長。
まちづくり推進課長	(以下、資料をもとに説明)

西村委員長

説明が終わった。委員から質疑はあるか。
(「なし」という声あり)

(7) 石見交通路線バスの減便等に伴う対応について

西村委員長

まちづくり推進課長

まちづくり推進課長

(以下、資料をもとに説明)

西村委員長

説明が終わった。委員から質疑はあるか。

永見委員

波佐線は朝便が亡くなった代わりに児童生徒にはタクシーでの対応をしてもらっていることがよくわかった。高校生の下校時の対応はどうなっているか。

まちづくり推進課長

高校生の下校については当面对応できると聞いているが、具体的には現在、今市線の利用での帰宅も可能だったと記憶している。代替案は必要ないとうかがっているの、具体的な対応については措置していない。

永見委員

3名の浜高生が朝のタクシーを利用している。彼らは伊木町内の生徒なので今市線とは関係がない。帰りはどうなっているかご検討いただきたい。

まちづくり推進課長

波佐線で夕方に浜田駅を出発する便があるので、それを当面利用して頂く。また保護者の送迎も併せて利用しながら対応できるという話だったので、現在のような形になっている。

永見委員

波佐線については理解した。3月議会の後に地域の方から、バスを使いたい利用したい時間が合わないのが通院を我慢している高齢者がおられるとか、家の近くで乗り降りできるようにしてほしいとか、今後の見直しについては地元の声を反映していただきたい。団塊世代の方も先々に不安があるという声を聞いている。どのようなお考えを持っているか。

まちづくり推進課長

今市線の調整については現在進めている。学校関係者の通学便の確保と、一般高齢者の通院等移動の確保は少し分けて考えたい。高齢者の利用については自宅近くから目的地まで行けるようなデマンド型の運行を望まれているという声も聞いている。朝夕は学生の通学用バスを運行して、昼間は高齢者向けのデマンドタクシーを運行するといった組み合わせも考えられるかと思う。それも視野に入れて改めて地域のご意見を聞いて対応したい。

永見委員

地元ニーズにあった代替案でなければ。利用実績が減少の一途をたどることになる。地域の声は聞いて頂きたい。また、今後の見直しについては公共交通会議にかけられるかと思う。スケジュールをお示しいただきたい。

まちづくり推進課長

運航開始が12月16日からとなるので、陸運局等の手続も必要になる。夏くらいで公共交通会議を開催したいと思っているので、それまでに地元意見もしっかり聞いて具体的な代替案の計画と、運行ダイヤ・日時等の調整も詰めていきたい。

永見委員

夏まであと2か月あまり。早急に対応して頂き、スケジュール的なものを6月議会か次回の委員会にお示しいただけるか。

まちづくり推進課長

次回の委員会等でスケジュールをお示しできるようにする。

芦谷委員

櫛田原線は対応なしとある。地元の合意は得ているか。

まちづくり推進課長 櫛田原線の対応なしとは、5月1日のダイヤ改正分については具体的に対応はない、ただし12月16日に櫛田原線は全線廃止になるので、これについての対応は今市線と同じようなスケジュール感で具体的な検討を行っている。

芦谷委員 地元との調整をしっかりとやってもらいたい。

西村委員長 他にあるか。

(「なし」という声あり)

(8) 令和元年度学力向上総合対策事業実績報告書について

西村委員長 教育部長。

教育部長 簡潔に説明するよう私から指示を出した。そのためそっけない印象があるかもしれないが、指示によるものなのでご理解をお願いします。

西村委員長 学力向上推進室長。

学力向上推進室長 (以下、資料をもとに説明)

西村委員長 説明が終わった。委員から質疑はあるか。

西川委員 学習プリント配信システム活用事業について。実物を見ていないがこれは、小中学校でインターネットを活用して学習プリントを配信し、好きなものを学校で取り出す事業だと思う。事業実績を見ると小学校の要請によって必要なプリントを教育委員会が印刷して配布するとある。これではこのシステムを導入したとは言えないのでは。

学力向上推進室長 両方できるようにしている。教育委員会でも印刷して、要望によっては数を印刷して学校に届けている。各学校でもアクセスしてプリントアウトができるようにしている。教育委員会で印刷できるのは、教員の事務作業時間を削減するため。

西川委員 そもそもインターネットを活用した事業なので、オンデマンドで出せるシステムだと認識しているのだが、どちらもできるのだろうが本来ならその場で先生が好きな時に必要なものを出すべきもので、先生や教室にプリントを配るのは本来の趣旨と違うと思うが、これからも続けていくのか。

学力向上推進室長 今年度についてはできるだけ学校で印刷するようお願いしている。

西川委員 本来そうあるべきなのでそうしていただくべき。アクセス数が16,144回だが、使用のバラつきがあると生徒に公平な指導ができない。学校間や教師間のバラつきはいかがか。

学力向上推進室長 おっしゃるとおり。学校間格差はあまりないが先生によつての格差はある。今後プリント配信システムのプリントを使った授業での活用方法や、授業から家庭学習に向かってどのようにやっていけば良いか、研修会等々もやっていきながら先生方の啓発をはかっていきたい。

西川委員 配信システム導入ということで僕は字面しか見てないが、そのシステムの利点を発揮できるような研修活動をやっていただきたい。

学力向上推進室長 協調学習について。今後市内に広げていくために市内の子どもたちに公平に受けさせてあげたいのだが、予定はどうなっているか。

学力向上推進室長 今年度も別の中学を指定校として行っている。東中学と第四中学を今年度の指定校にして推進するようにしている。昨年度までの指定校についても、今年度に授業改善プランを出してもらったが、それを見ると協

調学習を続けていくということで、指定校を少しずつ増やしながら全体に広げていけるようにしたいと思っている。中学校の授業改善に課題があるということで中学は中止している。小学校へも指定校を増やしていかなければと思っている。

西川委員

31ページの総括について。学力向上総合対策事業ということで、成果は学力の向上なのだが、今回総括の指標として、児童生徒の意識調査の項目について記述がある。これも一面ではあるが学力がどうなったかを記述してあるべきだと思うのだが。

学力向上推進室長

全国や県の学力調査の点数のことと解釈してお話する。調査が終わって結果が出た時にはその都度議会にも報告させていただいている。ご指摘のようにこれからを総合的にやったものがそこに繋がる。冒頭に載せていけるよう検討させていただきたい。

西川委員

実績報告書としてまとめているなら、学力についての記載があっべきという意見だった。

三浦委員

学習プリント配信システムの活用について。今後小中学校にタブレットが貸与される。そうなればプリント配布はなくなるのか。

学力向上推進室長

タブレット対応にするシステムもある。今後タブレットの導入状況を見ながら、そちらへ切り替える。システム導入自体の単価はあまり変わらない。

三浦委員

物理的に可能なのだろう。印刷代も結構バカにならないので、経費面も配慮してできるだけ紙を出さないのも良いと思う。

学校教育課長

2つめ、学校司書の配置基準はどうなっているか。

詳しい資料は手元がないが、浜田市では学校司書について5時間勤務の司書と6時間勤務の司書がいて、小さい学校3校ほどは学校図書館支援員ということで勤務してもらっている。

三浦委員

学校図書館活用教育研究事業は成果も出ている評価で、その事業を推進していくにあたっては学校司書の存在が非常に大きいのだと思う。旭を視察させていただいた際、事前資料の作成は司書が全部やっておられるとのことで非常に驚き感心した。司書の事前準備等の業務内容は結構ヘビーというか、いろいろあるのだろう。かつこういう指定校事業になっていくと、かなり役割も大きくなっていくのではないかと思う中、現在の配置基準で十分に司書が児童生徒へのサポートができるのか。どのように考えているか。

学校教育課長

司書については長年勤務していただいているベテランの方もおられる。県も今後学びのサポーターという形での導入も検討されるが、浜田市の司書についてはベテラン司書のノウハウを生かしたり、市としても、県としても様々な研修会をしている。ただ本を貸すだけという認識もまだあるが、浜田市の司書は既に県が求めているスキルを持った司書がたくさんいる。ご指摘のような負担も確かにある。本来、学校には司書教諭がおられるので、その方が担うのが本来なのだろうが、先生方の多忙感を補填する意味で県が学校司書の配置をしている。役割を果たしていただくよう研修も重ねながら、ただ司書に丸投げということがないように管理職も含めて、学校図書館長という視点を持って関わっていただくようお願いしている。

三浦委員	3点目。資料として学力向上推進室だよりというものが添付されていて、毎号レターケースに入れていただいているので拝読している。教育現場の様子や知見の共有が目的で作られていると理解している。このペーパーはどのような形で誰に配布されているのか。
学力向上推進室長	基本的には各学校へ配布している。並びに議員や教育委員に配布している。ホームページにも載せており、どなたでも見られるようになっている。
三浦委員	学校の先生方が見ておられると思う。浜田市としての学力向上推進室の方向性や取組を共有する良いツールと思う。学校に配って終わりではなく、できるだけ沢山の先生に見ていただいたり、活用推進したら良い。
芦谷委員	司書教諭、学校司書、支援員には非常に熱心で力のある方がおられる。どんどん前に進んでいる学校とそうでないところがある。専門職の方々の話し合いで、先進的な部分を他の学校が学ぶような連絡会はあるのか。
学校教育課長	県の研修会もあるし、市も連絡会と称して会合をしている。そういう中での意見交換や、学校図書館だよりを出してみたりしている。また日誌を毎日つけてもらっており、それが教育委員会に回ってきたりする。そのように情報共有している。 学校間格差については、2、3年前から少し学校間の異動をかけているので、小学校から小学校、小中をまたいで異動したりして、良い取組はいろんな形で広がるように、司書の希望も聞きながら移動についてご協力いただき、全市的に広がるような取り組みを行っている。
西川委員	学力向上推進室だよりは、当初配布された時には児童生徒の個人情報があるかもしれないので取扱い注意とお聞きしていたのだが、ホームページで公開されているのか。
学力向上推進室長	学校間で見られるサーバーの中に入れてある。もしインターネットに公開する際には学校に連絡して了解を得たもののみにするなど配慮している。
西川委員	議員は取扱い注意ということで引き続き留意しておけば良いか。
学力向上推進室長	そのようにお願いします。 (「なし」という声あり)
西村委員長	昼食休憩に入る。再開は1時10分からとしたい。

[休憩 12時10分]

[再開 13時10分]

(9) 令和元年度青少年サポートセンターの利用状況について

西村委員長	学校教育課副参事。
学校教育課副参事	(以下、資料をもとに説明)
西村委員長	説明が終わった。委員から質疑はあるか。 (「なし」という声あり)

(10) 浜田市社会教育アドバイザーの委嘱及び令和元年度の活動について

西村委員長	生涯学習課長。
生涯学習課長	(以下、資料をもとに説明)

西村委員長 | 説明が終わった。委員から質疑はあるか。
(「なし」という声あり)

(11) 特色あるふるさと教育事例集及び海洋教育実施概要集について

西村委員長 | (以下、資料をもとに説明)

西村委員長 | 説明が終わった。委員から質疑はあるか。
西川委員 | 海に面していない自治区の方も川から海への水の流れは大事ということでこのようになっているのだと思うが、名称は海洋教育ということで分かりにくい。もう少し内容に則したような、自然循環といった名称でも良いと思うが、海洋に拘る理由があるのか。

生涯学習課長 | 文科省の中においても海洋教育という単元がある。その中に海・山・川といった記載があるので、広く海洋教育として取り上げさせてもらった。

西村委員長 | 他にあるか。
(「なし」という声あり)

(12) 令和元年度 浜田市立図書館全館の利用状況

西村委員長 | 生涯学習課長。
(以下、資料をもとに説明)

生涯学習課長 | 説明が終わった。委員から質疑はあるか。
西村委員長 | (「なし」という声あり)

(13) 浜田市立図書館の機器入替にかかる臨時休館期間の変更について

西村委員長 | 生涯学習課長。
(以下、資料をもとに説明)

生涯学習課長 | 説明が終わった。委員から質疑はあるか。
西村委員長 | (「なし」という声あり)

(14) 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う令和2年度芸術文化事業の延期・中止について

西村委員長 | 文化振興課長。
(以下、資料をもとに説明)

文化振興課長 | 説明が終わった。委員から質疑はあるか。
西村委員長 | (「なし」という声あり)

(15) 浜田城下町案内板について

西村委員長 | 文化振興課長。
(以下、資料をもとに説明)

文化振興課長 | 説明が終わった。委員から質疑はあるか。
西村委員長 | 6か所すべて見て回った。非常に興味深い看板だと思うが、あまりにも時期が遅すぎる。400年記念事業は昨年度の目玉事業で、この予算も当初予算に計上されているものである。それが、年度が明けて4月2日に公開された。開府400年に合わせて市民の歴史認識を上げるためというのであれば相乗効果があるが、年度が変わってからこれをやっても意味

- 文化振興課長 　　が相当薄れると思う。なぜこうなったのか。
- 文化振興課長 　　昨年度から400年事業の一環として行ってきた。準備不足のところはお詫びするしかない。セレモニーについては4月2日に行ったのだが、年度末までのところで6か所設置は行った。10月の式典の頃やその辺りが最も望ましかったのではないかと私も思っている。準備不足をお詫びする。
- 西川委員 　　一過性で終わらせないということだが、年度終わって取り付けて、この後どうされるのか。1から6まで歩いて3.7キロの46分。良いウォーキングコースになると思う。これを利用したウォーキングイベント等は今後活用されるのか。
- 文化振興課長 　　ウォーキングイベントを企画していた。できれば5月のゴールデンウィーク中に学校に向けたイベントをして、その後はウォーキング協会と協力しながらイベントを考えていた。コロナの関係で企画はしたものの詳細までは詰めていない。今後協議してイベントを是非行い、取組みたい。
- 西村委員長 　　他にあるか。
- （ 「なし」という声あり ）

(16) 浜田市の歴史読本の刊行について

- 西村委員長 　　文化振興課長。
- 文化振興課長 　　（ 以下、資料をもとに説明 ）
- 西村委員長 　　説明が終わった。委員から質疑はあるか。
- 西川委員 　　これも先ほどと同様。平成30年度に刊行する予定のもの。開府400年に合わせてふるさと郷育で使う意味合いだったろうと思うが、これもまた年度が変わり今年度になって刊行した。非常に事業効果が少なくなっている。タイミングとしてどうなのか。4月9日に記者発表されている。この時期、浜田のコロナがどうなっているのか市長メッセージがないということで市民から色んな声が上がっていて、他自治体では色んなメッセージが出ている中、この記者発表。この辺のちぐはぐさ、非常に理解できないのだが。
- 文化振興課長 　　刊行時期が年度をまたいで遅くなってしまったことについては、先ほどの案内看板同様、お詫び申し上げたい。今後毎年6年生に配布していくので、一過性のイベントでは終わらせず、今後も引き続きふるさと郷育に活用していただきたい。
- 文化振興課長 　　記者発表が4月に入って、またコロナの関係で時期的にコロナ情報を市から送るべきところを、こちらをPRしたタイミングについても、学校へ配布して活用してもらおうと同時に、市民へもPRしたかったという気持ちがあったため、この時期に既に予定を入れていた。刻々と変わる情勢があり、タイミング的に非常に難しかったと反省している。早いうちに刊行できていればこのようなことにはならなかった。
- 西川委員 　　タイミングは良くなかったものの、新聞でもNHKでも報道されたので、市民へのPRはできた。活用していただきたい。
- 西川委員 　　こども向けの表紙ではあるが内容は大人にとっても興味深い。市民にたくさん読んでいただきたい。今後周知活動に力を入れていただきたい。

西村委員長 | しかし何度も言うが、400年でやるはずだったのにタイミングが遅すぎて本当に意味がないので、そこは本当に反省していただきたい。
他にあるか。
(「なし」という声あり)

(17) 浜田市のAED設置場所等の公開方法変更

西村委員長 | 警防課長。
警防課長 | (以下、資料をもとに説明)
西村委員長 | 説明が終わった。委員から質疑はあるか。
三浦委員 | 地図上のマークが2種類あると思うが、この差は何か。
警防課長 | 赤色の四角になっているのがAEDのみ設置してある場所。公共機関、公開の許可をいただいた事業所等がこれにあたる。ハートマークについては浜田市の事業として進めている、街角救急ステーション。AEDと応急手当員がセットで活動ができる所を示しているが、これを作成した後にもこれに気づき、もう少し分かりやすくトップページに表示しておけば、手当ができなくてもできる所を設定できるということがあるので、今後更に改善したい。
西村委員長 | 他にあるか。
(「なし」という声あり)

(18) 消防団車庫統合について

西村委員長 | 警防課長。
警防課長 | (以下、資料をもとに説明)
西村委員長 | 説明が終わった。委員から質疑はあるか。
(「なし」という声あり)

(19) 消防救急無線デジタル化整備における談合の対応について

西村委員長 | 通信指令課長。
通信指令課長 | (以下、資料をもとに説明)
西村委員長 | 説明が終わった。報告があったように6月定例会で提案予定であることを踏まえた上で、委員から質疑はあるか。
(「なし」という声あり)

(20) その他

(配布物)

- ・ 令和2年度園児・児童・生徒数一覧について
- ・ 令和2年度学校職員名簿について
- ・ 令和2年度公民館職員名簿について

西村委員長 | 配布物が3件あるが、これについて執行部から説明は。
(「なし」という声あり)
特別定額給付金室長 | では配布物は各自ご覧いただきたい。
この他に何かあるか。特別定額給付金室長。
報告させていただく。お手元に資料を配布した。これについて説明する。

(以下、資料をもとに説明)

西村委員長
西川委員

今の件に対して質疑はあるか。

他の自治体ではトラブル例等が報告されている。自治体によっては申請書類において本人の顔写真があるものを要求されており、高齢者が用意できないということがあった。浜田市では保険証でも良いとされている。自治体によって差があるのは、ただ自治体の判断で良いのか。

特別定額給付金室長

本人確認書類のことと思うが、ホームページ等を確認すると顔写真のないものであれば2点を要求される市町村、顔写真があれば1点で大丈夫なところ、または1点で良しとする市町村もある。Q&A等を読んでも2点必要とするという記載はないので、1点で本人の確認とさせていただいている。

西川委員

それによって非常にトラブルが少なくなっていると思う。また、オンラインで非常にトラブルが多いと聞いているが、これについて浜田市はどうか。

特別定額給付金室長

浜田市のオンライン申請受付状況としては、現在のところ329件の受付がある。しかしながら、実際のダウンロードの件数としてはもう少し多くあり、不受理としているものが13件ある。その内容は、まず重複申請があったこと、世帯主に誤りがあったこと、世帯員の入力を誤っているもの、といったケースがあった。そういったチェックがかからないというところで、各市町村のオンライン申請にトラブルが生じているのではないかと考える。

西川委員

トラブルが多い自治体ではオンライン申請を取りやめたところもあるらしいが、浜田市はその予定はないか。

特別定額給付金室長

現在のところ、オンライン申請をとりやめることは検討していない。

西川委員

引き続き大変だろうがよろしく願います。

西村委員長

他にあるか。

(「なし」という声あり)

教育部長

先ほどの配布物のうち、訂正をさせていただきたい。令和2年度学校職員名簿をご覧いただきたい。第一中学校校長に二段書き下段、校長待遇で西谷先生のお名前があるが、先にお亡くなりになったので訂正分の差し替えをさせていただく。

西村委員長

5月29日の全員協議会へ提出して説明すべきものを決定したい。執行部の意向を確認しておきたい。

総務課長

(7) 石見交道路線バスの減便等に伴う対応についてと、(19) 消防救急無線デジタル化整備における談合の対応についてと、特別定額給付金についての3件を全員協議会に提出し、報告させていただきたい。

西村委員長

3件報告との提案があったが、委員から意見はあるか。

芦谷委員

資料配布についてはどうか。

総務課長

資料は議員のタブレット内ですべて共有化されていると理解している。

西村委員長

では3件ということで願います。

2 その他

西村委員長

執行部からあるか。

(「なし」という声あり)

委員からあるか。

(「なし」という声あり)

では、以上で執行部は退席いただいて構わない。5分ほど休憩する。再開は2時5分から。

《 執行部退席 》

[休憩 13時 58分]

[再開 14時 05分]

3 取組課題「こどもの可能性を育む幼児教育について」

西村委員長

委員会を再開する。ここからは政策討論会に繋がっていく課題について。前回はテーマを決めて、議論をどうやって進めていくかについて私なりの案を提案して確認していただいた。1から5までの流れはご了解いただいたと思う。

ただ1点、提言まで至らずとも取組んで良かったと思える議論にしたいということについては、少し弱気きではないかということで、提言までを目指そうという確認がされたと思っている。

今日は、前回に皆から出してもらった問題意識や意見を、私なりにある程度の方向性を持ちながらポイントを掴んだ上で記載し、その中から方向性を見つけていこうということで、3ページもので今回は作ってきた。読み上げる形で提案したい。

(以下、資料をもとに説明)

西川委員

タイトルの子どもの「こ」は平仮名だった気がするのだが、どちらかはっきりさせたほうが、胸がすっきりするのだが。

下間書記

平仮名が正しい。

芦谷委員

大変良くまとめてもらっているが、8人の気持ちを合わせるの難しい。とりあえず学習する機会を1、2回設ければ更に見えてくると思う。なかなか方針が出てこないのだが。

西村委員長

ステップゼロの1、2をとりあえずと今日は思っているのだが。

三浦委員

進め方については、異論はない。最初の、どの方からは分からないが、最初にお話を聞くのは講演会等、基調講演みたいな入口なのかと思うので幅広く、まさに研究テーマであるこどもの可能性を育む幼児教育というテーマでお話いただける方を探して。もちろんお話は多岐にわたると思うが、その中でいろいろな情報や刺激をいただける方を選任していく入口は良いのではないかと思う。

もう1つ、これは私もどうするべきかわからないのだが、委員長にまとめていただいたこれを、どう思考や情報整理していくか考え方が、幼稚園、保育所、社会教育施設等、いま担っているそれぞれの役割毎に情報を得ていく整理の仕方だと思う。対案がないので何とも言えないのだが、いろいろな情報を得たり考えていく時に、この切り方しかないのかとは思っている。別の切り方があるのかと感ずるのは、例えば社会教育施設のことを前回意見させていただき、ここにも書いてもらっているが、これでいくと社会教育施設の幼児教育という幅広いものを考える中での社会教育のあり方を、この部分だけで議論していけるか。例えばこども

美術館の例も挙げたが、文化施設でこういった幼児教育へのサポートプログラムが開発できるかは、市教委から話を聞くだけで情報が得られるのか。十分にこどもの表現力というのが、幼児教育の中で表現力を養うような機会を提供していこうという、情報を見たりするので言っているのだが、例えばそういう議論をどこでしていくのかといった時に、施設ごとにヒアリングだとか、議論がしきれぬのか整理できないでいるのが現状である。

西村委員長

私もそのように感じている。そういう意味ではどこかの自治体の斬新な施策を、自分らが今、調査研究していることとは別の視点で、そういう意味では脈絡はないのだが、どこかの変わった施策を紹介されるとそこでまた違った議論が展開する可能性もあるのではないかという思いはしている。市教委に話を聞いて、市立幼稚園の教諭の話も聞いて、それで何かこどもの可能性が広がれば良いけど、そう簡単に事は運ばない気がしている。

西田委員

浜田市教育委員会の考え方は非常に大事だと思う。浜田市の中で義務教育と幼稚園は教育委員会で、ゼロから3歳までは子育て支援センターや保育所になると健康福祉部になり、自分の所管管轄内では事務的なことをこなしているように思うが、本来の幼児教育の一番大切なことは、所管ではなく年代の総合的なものだと思う。全国の中には教育委員会や福祉関係等の所管ではなく、総合的に行政として幼児教育に取り組んでいるところはないのか調べると、幼児教育部や課で取り組んでいるところもある。恐らくそういったところはジャンルを超えて総合的に地元のこどもたちの幼児教育過程で一貫して何かの取り組みをしているのではないか。そういう自治体もある。前回、佐賀県武雄市の話をしたが、教育委員会とは別個にこども部があった。それは行政としてこどもの部を立ち上げて、部長がいた。今は教育委員会の中に入っている。どういう経緯があったのか知らないが。そういうところを探すのも手だと思う。

西村委員長

要するにステップ2で書いていることは、全部現状把握である。教育委員会、幼稚園、保育園、社会教育施設の現状はどうあるのかは、それはそれで捉えておかないといけないから羅列しただけのことなので。これはこれで絶対にせねばいけない。それなくして提言はできない。それは誰でも考えることであって、それを文章化しただけである。

そうではなく我々が今やろうとしているのは、こどもの可能性を育む教育についてである。それはどういうものかが、全然分かってないのだから、そこをどうやったら自分のものにできるか。それが一番重要だろうと思う。単に何か書いてあったからこの通りやればできるといった話ではない。少なくともイメージとしてしっかり捉えられることが必要だし、具体的に現実に展開していくためにはどうすれば良いのかになると、現場のプロのように経験がないと、僕らのような経験のない者がいくら頭を使っても限界がある。そこがまだ見えないから提案できない。皆同じ感じだろうと思う。その道の専門家の話を聞けば、中にヒントが得られるかもしれないし、あるいはもっと具体例として紹介があるかもしれない。だから、ここで議論する前にそういう人を呼ぼうというのが前回の結論だったような気がする。

芦谷委員

1つの提案なのだが、12月10日にここで幼児教育センターの話聞いた。あれが中途半端に終わった感じがしているので、できれば質問事項を準備しておいて再度あの方々に来ていただいてディスカッションして、更にこちらが質問して理解を深めるのが第一ステップではないか。

西村委員長

私は一考の価値はあると思っている。どうしても幼稚園教育は避けて通れない問題なので、幼稚園教育要領、これわずかA4の19ページのもので半日もあれば読める。読んできて聞けば、もっと深まると思う。いずれにせよこれに基づいて幼稚園運営はされているのだから。これは絶対に読まねばいけない。

牛尾委員

教育振興計画の中で浜田の幼児教育とは幼稚園教育なのである。保育園教育について何ら触れられていない。しかも全体の子どもたちで言えば、保育園の子が圧倒的に多い。そこに対してお金は出しているが丸投げなので、その辺もどうあるべきか調べる必要があると思う。ある園長経験者が言うには、こども園には保育部と幼稚園部があるが、理論的には分けられているが中身は、ぐしゃぐしゃだと。親にとっては幼稚園へ行って、時間が来たら保育園に預けて貰えるから都合は良いが、幼児教育という面言えば、いわゆる幼稚園教育には遠く及ばないと言われる方もおられる。その辺を調査したい。圧倒的な数の保育園に我々の町の幼児が行っている。それについてお金は出すが市は中身に一切かかわっていない。しかし、やがて小学校へ入ってくるのだから、そこの子供達がどうなのかということ詳しく分析する必要があるのでは。幼稚園はある程度分かっているけど、この点についてはまるで中身が分からない感じがする。

永見委員

現状の把握をしっかりとってからと言われた。やはりその辺りから入って浜田市の現状の説明を聞いて、それからいろんな分野の経験を持っておられる方の情報もいただく形で、それから前に進めていけるのでは。現状自体が把握できてないので不安である。

西村委員長

それは前回にある程度確認できたとは思っている。現状把握は絶対にしなければいけない。しかし順番としてはステップ2だということで、皆からある程度合意は得た気がする。その前に、あるべき幼児教育というか、「こどもの可能性をはぐくむ幼児教育」とは一体どういうものなのかということから、まず入っていく。文献でも良いが誰かその道の秀でた方の話を聞く方が良くとも思う。そこから触発されるような話を聞く、あるいは文献を読む。ある程度イメージ的に掴んだうえで、実際に浜田市の幼児教育なり保育なりは、どういう現状にあるのかを把握していこうという順序を、把握したような気はしているのだが。

私が言いたいのは、委員長がそれをやるのではなく担当を決めて。ずっとその担当が仕切るという意味ではない、最初の取り掛かりの講師や文献を提案するまでを誰か1、2人に担ってほしい。

次に議論を重ねる上で、そういう問題であれば誰々の話を聞く。あるいは意見交換をすればもっと深まるのではないかとということで担当を決めて折衝するとか、そういうやり方で行きたいということなのである。

三浦委員

皆が許可してくだされればだが、そもそもこのテーマを提案させていただいたということもあるし、私によければ最初の講師先生や文献等、議

論のスタートとなる題材を提供する仕事をさせていただいても良いかと思う。立候補する。

西村委員長

三浦さんには自ら手を挙げていただいたので当選確実。私の思いは、できれば期の若い人とベテランを組み合わせ、2人で提案して欲しい。そういう組み合わせでできれば。

西村委員長

文献になるか講師の講演になるか分からないが、それは提案次第で皆の意見を頂戴して決めていく。その提案を三浦委員と西田委員とで、提案までを担っていただくということで、進めてもらって良いか。

(「はい」という声あり)

ではそのように進めていきたい。

とりあえず今日はそのところまでで終えよう。

(以下、次回の日程調整)

では6月8日(月)13時半に次回総務文教委員会を行う。それまでに案があれば三浦委員、西田委員に申し出ていただくこととする。

以上で総務文教委員会を終了する。

[14 時 57 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 西村 健 ㊟